

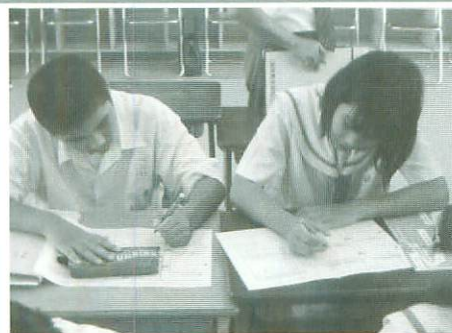
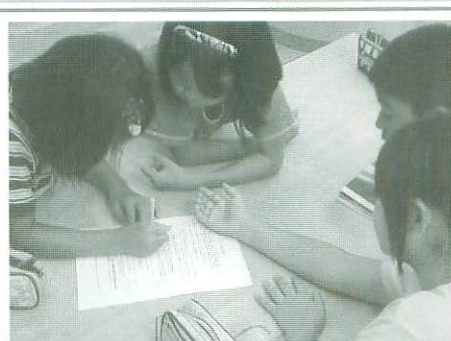
東 雲

第 24 号 平成 18 年(2006 年) 9 月

「具体的で役に立つ研究を」

島尻教育研究所 所長 古波蔵 肇

- ◆ 前期事業報告
事業報告／短期研修講座／「しののめ教室」実践報告
- ◆ 第 3 回東雲の会
- ◆ 第 24 期教育研究員 研究報告
テーマ・指導講師一覧／研究成果の概要
- ◆ 長期研修を終えて 委員長 上原正寛
- ◆ 新規購入教育用図書
- ◆ 後期事業計画・後期教育研究員一覧



南部広域行政組合
島尻教育研究所

■ 設置の目的

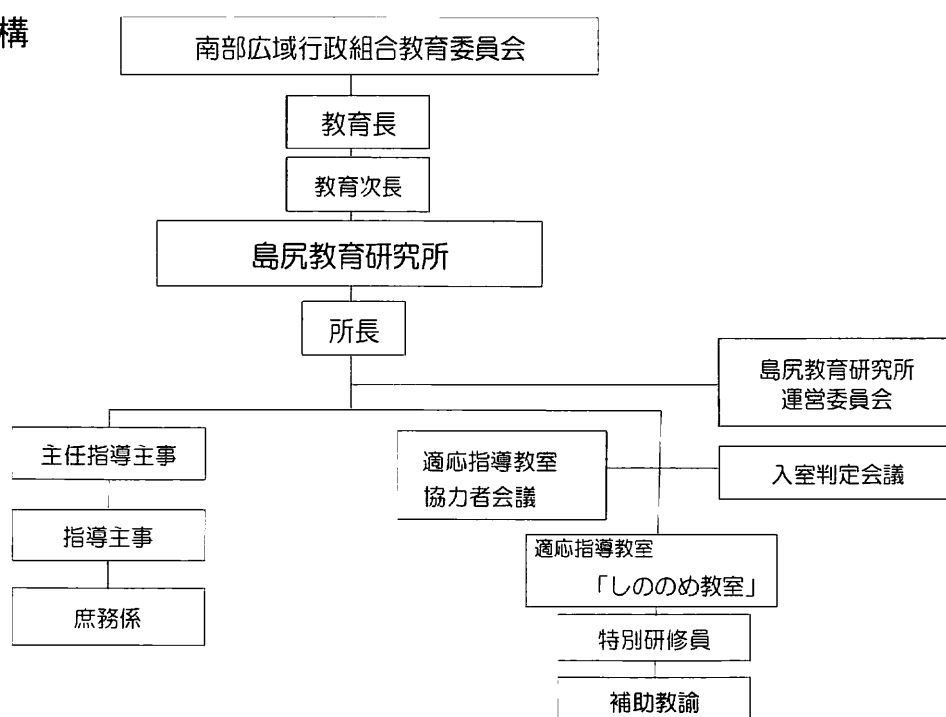
教育に関する調査・研究及び教育関係職員の研修を行い、資料提供並びに教育相談等の事業をとおして、島尻地区における教育研究の中核的存在とする。

■ 運営方針

- 1 「調査研究」は、教育に関する基礎調査や新しい教育課題について、科学的、実証的な方法によって進め、その結果は学校に実践資料として提供する。
- 2 「長期研修」は、幼児児童生徒、教職員、学校の教育課題を踏まえた研修を推進し、教師としての指導理念及び指導技術の専門性を高め、資質の向上を図る。
- 3 「短期研修講座」、「教育講演会」は、園・学校教育の課題や教職員のニーズに対応し、教職員の資質の向上を図るために実施する。
- 4 「しののめ教室」、「教育講演会」では、不登校児童生徒の実態に応じた柔軟な援助活動を行い、自立心を高め、学校復帰を支援する。また、県委託事業「スクール・サポート・ネットワーク整備事業(S S N)」の推進を図り、児童生徒への働きかけや保護者への支援を強化する。
- 5 「情報・広報」は、教育関係図書、研究報告書、各種教育月刊誌等の図書・資料を揃え、教職員や教育関係者の閲覧、貸出に努める。また、利用促進及び情報の共有化を図るためにホームページを開設する。

■ 組 織

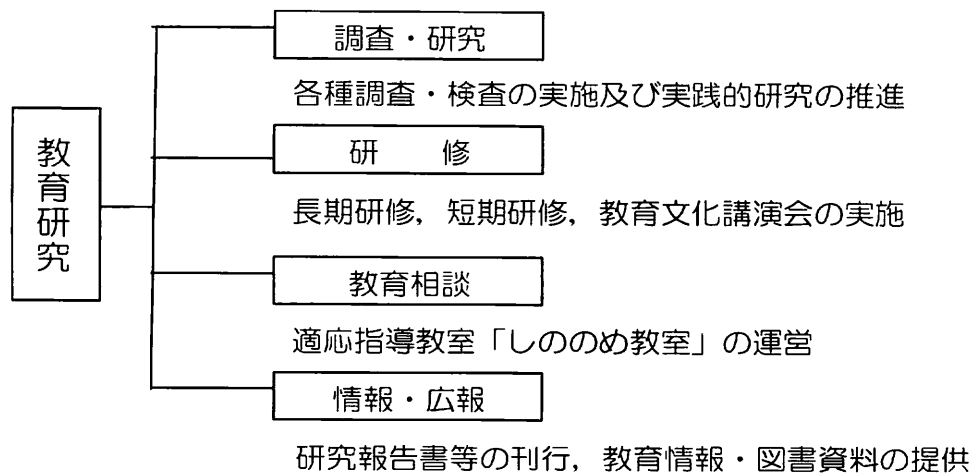
1 組織機構



2 所 員

所 長	古波蔵 肇	しののめ教室担当	
主任指導主事	新垣千鶴子	特別研修員 補 助 教 諭	具志堅源春 盛山久美子
指導主事	砂川芳之助	庶 務	宮里 紀子

■ 事業の四本柱



■ 運営委員一覧

役 職	氏 名	所 属 等	任 期
委員長	宮平洋子	学識経験者代表（元与那原小学校長）	H.18.9～H.20.8.
副委員長	糸満旦男	島尻地区校長会 小学校会長	H.18.9～H.20.8
委員	金城佳隆	島尻地区校長会 中学校会長	H.18.9～H.20.8
委員	伊集盛助	島尻地区教頭会 会長	H.18.9～H.20.8
委員	糸数 洋	島尻地区教頭会 副会長	H.18.9～H.20.8
委員	玉城久子	島尻地区公立幼稚園教頭会 会長	H.18.9～H.20.8
委員	賀数昌治	島尻市町指導主事協議会 会長	H.18.9～H.20.8

目 次

■ 「具体的で役に立つ研究を」	
島尻教育研究所 所長 古波蔵 肇	1
1 前期事業報告	
(1) 前期事業報告	2
(2) 短期研修講座	
○ 幼稚園教育	3
○ コンピュータ実技研修	4
○ 幼稚園教頭・主任等研修会	5
(3) 「しののめ教室」実践報告	
特別研修員 具志堅源春	6
2 第3回東雲の会	7
3 第24期教育研究員・指導講師一覧	8
4 第24期教育研究員研究報告	
○ 糸満市立高嶺幼稚園 教諭 島添章子	9
○ 八重瀬町立東風平小学校 教諭 比嘉瑞恵	10
○ 糸満市立西崎小学校 教諭 仲座 正	11
○ 南城市立知念小学校 教諭 玉城桂子	12
○ 南城市立佐敷中学校 教諭 上原正寛	13
○ 八重瀬町立具志頭中学校 教諭 比嘉智子	14
5 長期研修を終えて 第24期教育研究員委員長 上原正寛	15
6 新規購入教育用図書	16
7 後期事業計画・後期教育研究員一覧	18
8 島尻教育研究所 逍遙歌	



具体的で役に立つ研究を

島尻教育研究所 所長 古波蔵 肇

教育研究所は創立以来、今期の6名を含めて172人の研究員が修了した。実に貴重な研究を真摯に積み上げてきたものだと思いがする。設立時の「三人行えば、必ず我が師あり」は研究の基本姿勢となって燦然と輝いている。また、「自己変革、自己形成を求め続ける教師」、「教育は人なり」など歴代所長の下での研究所の姿勢が示されてきた。これらは、これから研究所運営にとってますます重要な指針となるものと思っている。

教育研究所の役割はこれらの指針や運営方針に沿って、教師に求められている資質能力を身に付けていくための下支えを的確に進めることである。ただ、一般的に言われている資質能力としての使命感、教育愛、人間力等々、これらの資質能力をすべての教員に一律に身に付けさせることを期待することは現実的でないとする考え方もある中で、画一的な教師像をさけ、各人の得意分野づくりや個性の伸長を図るという観点に立った研修が実施できたらと思っている。

これらの教師像や資質能力を踏まえながら、研究所の在り方を考えてみた。

教員の研修は一律、定型的な研修だけでなく、教員の経験、専門分野、能力などに応じて、尚かつ自主的な研修の姿勢が望まれる。研究所は先生方の日頃の教育実践と結びつきながら、これまで温めておいた思いを論理的に組み立て、実践に結びつけることができる場であり、日々の教育活動から離れて何らかのヒントを得る機会にもなる。

また、構えすぎた大袈裟な研究ではなく、日ごろ、ていねいで優しく子どもの実態に沿った効果が期待できる具体的な取組みをしている先生方は、最も研究に適した方であり、実践を確かなものにするための要である。

教師の教育実践、教育に対する考え方も多岐に亘っている。研究員の研究態様はもっと多様で個性的なものになっていくことが必要である。そのためには自校の児童生徒の実態をしっかり捉えた研究、自分の教育実践の中から生まれた研究、校内研究と関連させた研究、そして今日的課題に積極的に取り組む研究など、一人一人の教育に対する思いをいっばいに膨らませて研究員として来ていただくことを期待している。

研究員として六月間にわたり、日々研究と修養に努めている先生方は不安や混沌の中から秩序と有効性を確証する中で充実の日々が変わっていく。顔が変化をしていく。落ちついて重厚さがましていく。後になるとみんな笑っている。

まとまった研究成果が、多くの教師仲間から支持され共感を得る研究であることを期待している。そして研究が具体的で「役に立つ研究」であってほしいとも願っている。

研究所は学校と密接な連携を図りながら、具体的実践の悩みや課題を共有することを心がけるとともに、「教育の専門家としての確かな力量」の向上を目指して、自己変革、自己形成を求め続ける教師の研修の場となるために、一人ひとりの思いを大切にしたい研究所であるように努めたい。

今、これらの研究の深化発展のため、人的な連携を密にするとともに、研究の共有化を推進していくための組織づくりが進んでいる。今年度は研究所を終了した先生方で組織する「東雲の会」が会則や組織を整備して本格的にスタートした。

大いに期待したい。

平成18年度

前期事業報告

月	日	曜	行 事 名
4	4	火	第24期教育研究員入所式 指導講師委嘱状交付式
	26	水	研究計画検討会
	28	金	所内研修「カウンセリング」
5	1	月	所内研「教育長講話」
	15	月	☆「しののめ教室」入室面接
	17	水	所内研「進路指導」
	23	火	所外研「特殊教育諸学校体験研修」(島尻養護学校)
	24	水	☆「しののめ教室」入室式
	29	月	☆「しののめ教室」入室オリエンテーション
6	5	月	理論研究検討会(～7日)
	12	月	所内研「初代所長宮城恒彦先生講話」
	14	水	☆「しののめ教室」第1回教育現場で使えるカウンセリング実践講座
	20	火	☆「しののめ教室」第1会ケース会議
	28	水	研究協力員・指導講師辞令交付式
7	3	月	指導案検討会
	4	火	☆「しののめ教室」宿泊学習(糸満青年の家～5日)
	6	木	検証授業開始(～14日)
	14	金	☆「しののめ教室」終業式
	19	水	所外研「環境学習」
	24	月	短期研修「幼稚園教育」(～25日)
	27	木	短期研修「小中コンピュータ実技研修」(～28日)
	28	金	☆不登校児童生徒保護者相互支援の会
	31	月	短期研修「幼稚園コンピュータ実技研修」(～8月1日)
8	4	金	幼稚園教頭・主任等研修会
	16	水	研究報告書検討会(～18日)
	22	火	☆教育現場で使えるカウンセリング講座(～23日)
	25	金	第3回東雲の会
	30	水	所内研「書道」
9	1	金	☆「しののめ教室」第2学期始業式
	20	水	研究報告会 後期研究員オリエンテーション 運営委員委嘱状交付式
	27	水	修了式 第1回運営委員会 ☆不登校児童生徒保護者相互支援の会②
	29	金	研究員挨拶回り、研究員退所 ☆渡嘉敷いき自然体験キャンプ(10月3日)

幼稚園教育

二日間とも講話と実技研修を取り入れた。1日目の稲葉先生の講話は、各自自分を見つめる（知る）時間となり、人間関係が大切な幼児教育にふさわしい内容でした。多和田先生の実技研修では、読み聞かせの基本や重要性を学び、他園の先生方と交流しながら立体絵本等作成ができた。

二日目の比嘉先生の講話は、幼稚園要領を常に読み返すことの大切さを確認し、分かりやすい事例をもとに幼児教育の基本を示した。並里先生の実技研修では、楽しい雰囲気の中で、幼児との関わりに応じた「曲とダンスや踊り」の表現活動をたくさん学んだ。

更に、ニーズに応える研修に！

実施期日：7月24日(月)～25日(火)
実施場所：南部総合福祉センター
受講者：78人

1日目

講話：「心理的ポジションから見た保護者・園児とのよりよい関わり」
与那原町学校カウンセラー 稲葉律子

実技研修：「語ってあげて子どもたちに
～お話の語り方～」
県立総合教育センター 指導主事
多和田文子

2日目

講話：「『幼稚園教育要領』を踏まえた幼児教育の基本」
仲西幼稚園副園長 比嘉美也子

実技研修：「出会い・つながり・楽しむ表現活動」
那覇市こどもみらい局 子育て応援課
指導主事 並里しげみ



楽しそうに表現活動を行う幼稚園の先生方

講話
稲葉律子先生



実技研修 多和田文子先生



講話 比嘉美也子先生



実技研修 並里しげみ先生

コンピュータ実技研修

小中初級講座

実施期日：7月27日（木）～28日（金）

実施場所：東風平小学校コンピュータ教室 33人

内 容：1日目 「表計算・グラフ作成（エクセル）」
2日目 「プレゼンテーション（パワーポイント）」

小中中級講座

実施期日：7月27日（木）～28日（金）

実施場所：大里北小学校コンピュータ教室 6人

内 容：1日目 県立総合教育センター紹介・教材作成支援ソフト紹介
2日目 教材作成支援ソフトの紹介・各自で教材作成

幼稚園講座

実施期日：7月31日（月）～8月1日（火）

実施場所：東風平小学校コンピュータ教室 37人

内 容：1日目 園だより等の文書作成（一太郎スマイル）
2日目 プレゼンテーション（パワーポイント）



講師が個人指導



真剣そのもの受講者



質問してスキルを磨く

コンピュータ実技研修は、各講座2人の指導講師が丁寧に指導してくださり受講者からは大変講評であった。

幼稚園講座では、「説明がわかりやすく、ちょっと出来なくなったときでも後ろの方にいて、すぐに対応してくれたので良かった。」との声があった。

・初級講座でも「2日間という日程でゆっくりとできた。講師の説明や丁寧な個人指導が良かった。」との感想があった。

中級講座では、「様々なソフトの利用法を学ぶことができた。特にフラッシュやHPビルダーなどを活用すると、いろいろな教材づくりに応用できるので今後も役立てたい。」との前向きな感想が見られた。

今回は、幼稚園と小中初級講座は、多くの応募者があったが、小中中級講座が少なかった。講座内容を検討して園・学校のニーズに応えられるよう充実した研修にしていきたい。

幼稚園教頭・主任等研修会

実施期日：8月4日（金）

実施場所：南部総合福祉センター1階ホール他

参加者：幼稚園教頭・主任等38人、指導助言5人
園長4人、市町指導主事8人

午前

事例報告：「危機管理の取組について」

糸満市教育委員会指導主事 大城直之

研究協議1：幼稚園の危機管理、安心・安全に対して
教頭としてどう取り組むか」

午後

実践報告：「幼稚園の自己点検・自己評価の取組」

浦添市立仲西幼稚園副園長 比嘉美也子

研究協議2：「幼稚園の自己点検・自己評価をどのよう
に進めるか」

幼稚園の今日的課題の解決と教頭・主任等のリーダーシップの向上を目指して行われた研修会は終日行われた。昨年の研修会で出てきた課題に対する具体的な取組事例として事例報告と実践発表を行ったあと、研究協議で各園の取組を報告し、研修を深めた。

事例報告では、糸満市内の幼・小・中学校の事例をもとに、小学校・地域との連携の在り方、実効性のある危機管理マニュアルの作成、幼児に分かりやすい安全マップの作成等について説明し、理解を深めることができた。

実践報告では、まず、仲西幼稚園の概要と取り巻く環境、地域とともに歩む幼稚園を紹介した。そして、園の自己点検・自己評価では、評価項目と項目に沿った評価内容を一覧にした評価表を紹介し共通理解を図ることができた。また、評価の必要性や評価し改善していくことで、信頼される幼稚園作りにつながることも確認できた。



事例報告 大城直之指導主事



実践発表 比嘉美也子副園長



4つの分科会で研究協議



全体会 全参加者55人



前期事業報告 「しののめ教室」

学校現場で使える カウンセリング 実践講座

適応指導教室「しののめ教室」 特別研修員 具志堅源春

- 第1回「軽度発達障害のある子どもの理解と対応」6月14日(水) 参加人数49人
講師：大城 政之（沖縄県立総合教育センター 特殊教育課指導主事）
- 第2回「クラス運営に生かすSST（ソーシャルスキルトレーニング）」8月22日(火) 参加人数84人
講師：島袋 有子（臨床心理士）
- 第3回「人間関係探究の心理劇」8月22日(火) 参加人数63人
講師：浅野恵美子（スクールカウンセラー）
- 第4回「Q-Uを用いた学級集団のとらえ方と育て方」8月23日(水) 参加人数70人
講師：稲葉 律子（上級教育カウンセラー）
- 第5回「事例から学ぶ教育相談の実際」8月23日(水) 参加人数56人
講師：伊是名 聡（臨床心理士）
- 第6回「自律訓練法とロールレタリング」11月22日(水)
講師：与那城郁子（臨床心理士）
場所：南部総合福祉センター1階ホール
対象：幼稚園、小中学校教諭、市町村教育相談員等



本講座は、「不登校等、児童生徒の学校生活における諸問題に対応するために教育現場で使えるカウンセリングの基本的な考え方や技法を身につける」ことをねらいとし、上記にあるように年6回計画している。今年度は講座毎の募集をしたため、1講座平均64人となり、昨年度の平均47人より大幅な増加となった。参加者の感想として「知らないと言うことはもったいないことだと思いました。簡単なことですが学級経営にとっても生かされる内容でぜひ多くの先生方に知ってもらいたいです。」などの声があり、成果を上げていると推察できる。これからも、先生方の要望を聞きながら、今現場で必要とされている内容の講座を開設できるようにしていきたい。

「しののめ教室」の様子

当教室に、5月24日付けで小学6年生1人、中学1年生1人、2年生4人、3年生5人の11人が入室した。これまで、体験活動、学習活動、相談活動を通し児童生徒の自己肯定感を高め、保護者、学校、他機関との連携を密にし、スーパーバイザーや協力員からの適切なアドバイスを受けながら教室経営をしてきた。

9月現在、3人の生徒が学級復帰を果たし他にも3人の児童生徒が毎日2時間程学校で過ごせるまで元気になった。これからも、諸活動を充実させ、関係機関との連携を密にしながら児童生徒と一緒に頑張っていきたい。

第3回
東雲の会
(修了者の会)

役員・会則決定

趣 旨：島尻教育研究所長期研修修了者の連携を図り、ネットワークを広げるとともに、終了者の資質の向上を通して、島尻教育研究所並びに教育の発展に資する。

日 時：8月25日(金) 15:30~18:00

場 所：南部総合福祉センター1階ホール

実行委員：4・5・6期の修了者

参 加 者：修了者、歴代所長、歴代指導主事、研究所関係職員

会 順

- 1 開会のことば
- 2 所長あいさつ
- 3 講話
- 4 総会
役員の選出、役員紹介、
会則案の検討
- 5 懇親会
逍遙歌、乾杯の音頭
余興、懇談
- 6 閉会ことば

第3回にして、研修修了者による修了者のための「東雲の会」にしようとして役員を選出や会則の審議を行い、新たなスタートを切った。役員(任期は2年)は次の通りです。

会 長：与那嶺永子

副会長：山田 宏

書 記：大城幸子

会 計：與世田典子

事務局：当面は研究所

今後、年1回の定例会を行うが、運営は実行委員(三つの期の修了者)が担当する。来年は、7・8・9期が実行委員です。頑張りましょう。

9月末の会員数：172人

「私の授業づくりの旅」 (元)那覇市立城北小学校校長 西江重勝



西江先生は、伊江村出身。白浜小学校教諭を皮切りに教頭、校長、指導主事、那覇教育事務所長を歴任した。著書に「わたしの授業づくり旅」他がある。

講話では、教育の実践家であり研究者であった斉藤喜博に出会い・師事したこと。学校教育の中核は授業であり、教師は授業の専門家でなければならないとの立場で実践した授業創造の旅について話された。



与那嶺永子会長 山田 宏副会長



全員で久しぶりの逍遙歌

前期 第24期教育研究員・指導講師一覧

教育研究員	研究領域	研究テーマ	指導講師
島添章子 高嶺幼稚園	幼稚園教育	遊びの充実感を味わうための環境構成と援助の工夫 ー幼児の遊び能力に応じたボール遊びを通してー	名嘉元美佐子 学校心理士
比嘉瑞恵 東風平小	小学校 国 語	読書の範囲を広げようとする態度を育てる指導の工夫 ー読書のアニメーションの手法を通してー	大城早智子 長嶺小学校校長
仲座 正 西崎小	小学校 体 育	安全な生活を営もうとする児童を育てる指導の工夫 ー「けがの防止」における課題解決な学習と横断的な学習を通してー	玉城義一 八重瀬町教育委員会 指導主事
玉城佳子 知念小	小学校 総合学習	総合的な学習の時間における「学び方技能」を身に付けさせる指導の工夫 ー学習ヒントのあるワークシートとルブリックの活用を通してー	山中久司 与那原小学校校長
上原正寛 佐敷中	中学校 数 学	基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫 ールブリックを活用した指導と評価を通してー	大城盛幸 長嶺中学校教頭
比嘉智子 具志頭中	中学校 特別支援教育	難聴生徒における人間関係形成能力を培う支援の工夫 ーVLF プログラムとソーシャルスキルトレーニングを通してー	居原田 晃 上田小学校教諭

遊びの充実感を味わうための環境構成と援助の工夫 —幼児の遊び能力に応じたボール遊びを通して—



糸満市立高嶺幼稚園教諭 島 添 章 子

1 研究の概要

幼児が遊びの充実感を味わうために、抽出児の「遊び能力」に応じたボール遊びの環境構成と援助の工夫を図った。

2 指導上の工夫点

- (1) 「教師や友達に依存して自分から遊びに取り組めない幼児(Aタイプ)」と「遊びが持続しない幼児(Bタイプ)」の「遊び能力」を読み取り、遊び能力が高まる環境構成と援助を工夫する。
 - ・抽出児の「遊び能力」を遊び能力の評価基準を用いて読み取る。
 - ・タイプ別に「遊び能力」を高めるボール遊びの環境構成と援助を計画し実践する。
- (2) 遊びの充実感を味わえたかどうか、教師の観察から幼児の遊びの変容と、遊び能力の評価基準を用いた評価から変容を考察する。

3 指導の実際



【丸ドッチボールを楽しむ様子】



【友達とかかわりボーリングを楽しむ】

4 幼児の変容

- (1) 「教師や友達に依存して自分から遊びに取り組めない幼児」は自分から興味や関心を持ち、やりたい遊びに取り組むようになり「できたー」「やったー」と楽しんで遊ぶ姿が見られ、主体的に遊び充実感を味わうようになった。
- (2) 「遊びが持続しない幼児」は友達とのかかわりの中で協力できるようになり、ルールを守って楽しんで遊びこむ姿が見られ、遊びが持続し充実感を味わうようになった。

5 研究の成果と今後の課題

- (1) 「教師や友達に依存して自分から遊びに取り組めない幼児」と「遊びが持続しない幼児」が遊びの充実感を味わうようになった。
- (2) 「教師や友達に依存して自分から遊びに取り組めない幼児」と「遊びが持続しない幼児」の遊び能力を、更に高めていくための環境構成と援助の工夫。

※ 詳細は平成 18 年度 研究報告書 24 号に掲載



読書の範囲を広げようとする態度を育てる指導の工夫

ー読書アニメーションの手法を通してー

八重瀬町立東風平小学校教諭 比 嘉 瑞 恵

1 研究の概要

児童が苦手とする説明文の指導過程の中に読書アニメーションの手法を取り入れることで、児童に説明文のおもしろさを実感させ、教材文を拠点として科学的な分野への読書範囲の拡大を図った。

2 指導上の工夫点

読書の範囲を広げようとする態度を育てるために、次のような学習指導の工夫を行った。

- (1) 読解指導の過程において、ゲーム的な要素の読書アニメーションの手法を取り入れ、言葉への抵抗を取り除いたり、学習内容を深めたりした。
- (2) 読書指導の過程では、グループで活動できる読書アニメーションの手法を取り入れ、科学的な読み物の内容に興味を持たせ、グループでその本に関連のあるクイズを解かせることで、科学的な読み物への知的好奇心を起こさせるようにした。

3 指導の実際



読解指導における
読書アニメーションの
授業風景



4 児童の変容

- (1) 読書アニメーションの手法を取り入れたことで、児童は説明文の学習のおもしろさが分かり、意欲的に授業に参加することで読みの力が高まった。
- (2) 科学的な読み物への興味・関心が高まり、進んで科学的な読み物を借りる児童が増えた。

5 研究の成果と今後の課題

- (1) これまで児童が興味を示さなかった科学的な読み物への興味の開発ができ、読書の範囲を広げることができた。
- (2) 今後、さらにいろんな読書分野の興味の開発を行い、児童が主体的に読書分野を広げようとする態度を育成する。

※ 詳細は平成18年度 研究報告書24号に掲載



安全な生活を営もうとする児童を育てる指導の工夫

—「けがの防止」における課題解決的な学習と横断的な学習を通して—

糸満市立西崎小学校教諭 仲 座 正

1 研究の概要

安全な生活を営もうとする児童を育てるために、課題解決的な学習と横断的な学習の指導の工夫を図った。

2 指導上の工夫点

安全な生活を営もうとする児童を育てるために次のような指導の工夫を図った。

- (1) 学習カードを活用した課題解決的な学習で、「けがの防止（5年）」について実践的な理解を図る。
- (2) 学校での日常生活、学活、道徳等と連携した横断的な学習で、実践的な態度を育てる。

3 指導の実際



4 児童の変容

- (1) 課題解決的な学習を取り入れることで、自己の課題を認識することができた。
- (2) 自己の課題を認識させることで、課題を解決することができた。
- (3) 学校での日常生活、学活、道徳等と連携した横断的な学習を取り入れることで、安全に対する意識が高まり、持続することができた。

5 研究の成果と今後の課題

- (1) 学習カードを活用した課題解決的な学習で、自己の行動課題を認識し、課題を解決したことで、保健学習「けがの防止」の単元を実践的に理解することができた。
- (2) 学校での日常生活、学活、道徳等と連携した横断的な学習をしたことで、実践的な態度を育てることができた。
- (3) けがの原因と防ぎ方について理解が不十分な児童への個に応じたきめ細かな指導の工夫
- (4) 校内の安全への意識が薄い児童に対する教育活動全体を通した更なる充実

※ 詳細は平成 18 年度 研究報告書 24 号に掲載



総合的な学習の時間における「学び方技能」を身に付けさせる指導の工夫
ー学習ヒントのあるワークシートとループリックの活用を通して(3年)ー

南城市立知念小学校教諭 玉 城 桂 子

1 研究の概要

初めて総合的な学習の時間に出会う3年生に対して、「学び方技能」を身に付けさせるために、学習ヒントのあるワークシートを活用して学習を進めた。また、ループリックを使って自己評価をし、自分の学び方のレベルを確認させ、学習の振り返りをさせた。

2 指導上の工夫点

児童に「学び方技能」を身に付けさせるために、次のような工夫を行った。

- (1) 各指導過程において、学習ヒントのあるワークシートを作成し、手引きとして活用させた。
- (2) ループリックを活用して自己評価をさせ、その時間の学習の振り返りから自分の学び方のレベルがわかるようにした。

3 指導の実際



【調べたことをポスターにまとめます】



【どんなふうを書くか先生と相談中】

4 児童の変容

- (1) 総合的な学習の時間の「学び方技能」がわかったことで、総合的な学習の時間への学習意欲が高まった。
- (2) ループリックを使った自己評価を活用して学習の振り返りをすることで、自分がどんな学習をしたのかを確認でき、次の時間はどのようにしたらいいかを考えるようになった。

5 研究の成果と今後の課題

- (1) ヒント付きワークシートを使うことで、学習のしかたを身に付けることができた。
- (2) ループリックに基づいた自己評価をさせることで、学習の振り返りができた。
- (3) 児童がよりわかりやすいヒントのあるワークシートの工夫をしていきたい。
- (4) 児童が学習目標としてわかりやすいループリックを、児童といっしょに作成したい。

※ 詳細は平成18年度 研究報告書24号に掲載



基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫 ールーブリックを活用した指導と評価を通してー

南城市立佐敷中学校教諭 上 原 正 寛

1 研究の概要

ルーブリックを活用した一人一人の学習状況に合ったきめ細かな指導を行い、基礎的・基本的事項の定着を図った。

2 指導上の工夫点

基礎的・基本的事項の定着を図るため、次のようなルーブリックを活用した指導と評価の工夫を図った。

- (1) 授業導入では、ルーブリックを示して学習内容を把握させ、各生徒に目標レベルを設定させた。
- (2) 練習問題の場面では、学習内容を定着させるため、ルーブリックと連動した自作ワークシートを活用し、一人一人の学習状況に合った指導を行った。
- (3) 終末では、ルーブリックに基づいた自己評価で学習の振り返りをさせた。

3 指導の実際



ワークシートの活用



生徒一人一人への指導の手だて

4 生徒の変容

- (1) ルーブリックによって学習目標を把握することができ、目的を持って学習に取り組めるようになった。
- (2) ルーブリックと連動したワークシートの活用で、理解の程度に応じた学習ができるようになった。
- (3) ルーブリックに基づいた自己評価で、適切な学習の振り返りができるようになった。

5 研究の成果と今後の課題

- (1) ルーブリックを活用した指導と評価の工夫で、基礎的・基本的事項の定着を図ることができた。
- (2) ルーブリックの信頼性を高めるため、評価基準の見直し・修正をしていく必要がある。

※ 詳細は平成18年度 研究報告書24号に掲載



難聴生徒における人間関係形成能力を培う支援の工夫 ーVLFプログラムとソーシャルスキルトレーニングを通してー

八重瀬町立具志頭中学校教諭 比 嘉 智 子

1 研究の概要

難聴生徒の人間関係形成能力を培うために、VLFプログラムを取り入れた道德の授業を行った。また、言語学級でソーシャルスキルトレーニングを行い、それを島尻難聴・言語障害教育研究会中学部会で実践した。

2 指導上の工夫点

- (1) VLFプログラムの授業の中で、難聴生徒の役割取得能力を高めるための支援の工夫
 - ・役割取得能力をうながす発問の工夫
 - ・モラルジレンマの大型絵本の活用
 - ・協力学級において、TTを取り入れた授業
- (2) ソーシャルスキルを身に付けさせるための支援の工夫
 - ・言語学級だけでなく、島難言研中学部会等の協力
 - ・家庭との連携を図る

3 指導の実際



【協力学級での支援】



【言語学級での支援】

4 生徒の変容

- (1) VLFプログラムを取り入れた道德の授業を行ったことで、対象生徒は、与えられた情報や状況がちがうとそれぞれ違った感情を持ったり、異なった考え方を持つことがわかるステージ1へ高まった。
- (2) 言語学級でソーシャルスキルトレーニングを行い、それを島尻難聴・言語障害教育研究会中学部会で実践したことで、仲間の入り方のスキルが高まった。

5 研究の成果と今後の課題

- (1) VLFプログラムを取り入れたことで、ステージ0-Bからステージ1へ高まった。さらに、ステージ2へ高めるための継続指導が必要である。
- (2) ソーシャルスキルトレーニングを取り入れたことで、仲間の入り方のスキルが高まった。さらに、他のスキルも高めていきたい。
- (3) VLFプログラムとソーシャルスキルトレーニングを取り入れたことで、難聴生徒における人間関係形成能力を培うことができた。さらに、人間関係形成能力を高めていくために、協力学級や島難言研中学部会等の協力体制を強めていく必要がある。

※ 詳細は平成18年度 研究報告書24号に掲載



～長期研修を終えて～

教育活動に還元し、更なる自己研修を！

第24期教育研究員 委員長 上原正寛

4月、私達6人は島尻教育研究所第24期生として入所しましたが、この半年間、研究員一人一人の研究テーマは違うものの、全員が幼児・児童・生徒の「豊かな心」と「確かな学力」を目指し研究を深めてきました。また、互いに励まし合い、切磋琢磨しながら教師としての資質や力量の向上に努めることができた研修期間であったと思います。

これからの教育研究所の役割、研究の在り方を常に示唆してくださいました古波蔵所長。また、新垣主任指導主事、砂川指導主事には、文書の構成、表現、研究理論の項立て、指導案の作成、検証授業、報告書作成、発表と納得のいくまで、幾度も幾度も検討会をもち指導して頂いたことに、心より感謝しております。

研究所の1日は毎朝行われるミーティングや情報交換会で始まりました。研究に関する共通理解や報告書作成の勉強会等、短い時間ではありましたが研究員や主事、所長とのコミュニケーションの場となり、1日の中でも大切な時間となりました。また、月1回の「大切な話」では、研究員、砂川指導主事、新垣主任指導主事、古波蔵所長のユーモアを交えた体験談、教育や人生に対する考え方を聴きながら改めて「教育とは何か」を考え、そして自分を見つめ直す良い機会となりました。

所内研修では、「研究員としての基本的な心構え」をテーマに所長講話があり、研究を進めるにあたって、また教師としての心構えを学びました。玉寄次長の講話「組合の概要について」では行政と教育との関係を改めて知り、教育に対する期待の大きさを感じました。その他、「進路指導」「書道」等、様々な研修があり、多くの方々から、教育活動を多角的に見つめることの大切さやこれから成すべきことは何かを教示して頂きました。初代所長の宮城恒彦先生には、御講話の他、沖縄体験記『再び知覧へ』の小冊子や色紙等を頂き、その温かさに感謝しております。また、指導講師の先生方には、研究に対する助言だけでなく、教職に携わる者としての責任と誇り、情熱と真剣さを教えて頂き感謝の念でいっぱいです。

所外研修の「特殊教育諸学校視察」では、特別支援教育や個に応じた指導の在り方を学ぶことができました。「沖縄の自然」、「沖縄の歴史と文化」では、沖縄の素晴らしさを改めて実感すると同時に、自然保護の在り方や文化の継承について考えさせられました。

「環境学習」では、浦添リサイクルプラザやクリーンセンターの見学で、ゴミ問題についても深く考えさせられました。このように研究以外でも色々な体験をさせて頂き、視野を大きく広げることができました。

また、クラブ活動の時間もあり三線にふれる機会に恵まれました。代表的な曲「安波節」「安里屋ユンタ」を練習し、三線を弾く楽しさを味わうことができました。このように研修内容も多種多様で、毎日が学びと感動の日々でした。6ヶ月間で学んだことを教育活動において還元し、今後も更に自己研修に努めていきたいと思っています。

最後に、いつも温かくご指導くださいました古波蔵所長、新垣主任指導主事、砂川指導主事、大変お世話になりました。研究員一同感謝しております。また、このような貴重な研修の機会を与えて下さった教育委員会、所属学校長及び諸先生方、その他関係各位に厚くお礼申し上げます。

利用可

教科等	書名	著者・発行所等
国語	教師用指導者 四年㊤ 指導編 教師用指導者 四㊤ 研究編・ワークシート編 教師用指導者 1 指導編・資料編・問題回答編 読書力 子どもが必ず本好きになる 16の方法 ～実践アニメーション～ 力をあわせてチャレンジゲーム こころと体で表現あそび 読む力は生きる力	東京書籍 東京書籍 東京書籍 齋藤孝 有元秀文 アニメーション編集委員会 アニメーション編集委員会 協明子
数学	数学科指導と評価一体化の実際	正田實
体育	小学校保健学習の指導と評価 教師用指導書セット 5・6年 教師用指導書セット 3・4年 健康行動理論の基礎 ～生活習慣病を中心に～ 新学習要領による小学校体育の授業 5学年 高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編 小学校の保健学習 体育科の授業と評価 3年 体育科の授業と評価 4年 体育科の授業と評価 5年 体育科の授業と評価 6年 新学習要領による小学校体育の授業 3学年 新学習要領による小学校体育の授業 4学年 新学習要領による小学校体育の授業 6学年	財)日本学校保健会 学研 学研 松本千明 杉山重利・高橋健夫他 文部科学省 遠藤かおる・酒井緑他 池田延行・村田芳子 〃 〃 〃 〃 杉山重利・高橋健夫 〃 〃
総合学習	総合的学習に必須の学習技能 学び方技能が育つ「総合的な学習」 ワーク5・6年用 スペシャルワーク版 「学び方を学ぶ」 小学校中学年編 総合的学習の道具箱 ～設計・活動・評価に役立つ 67のアイディア～ 学び方技能が育つ「総合的な学習」ワーク 3・4 年用 スペシャルワーク版 子どもの生活力がつく「体験的な学習」すすめ方 体験活動を生かし個を育てる	有田和正 瀬川榮志 柴田義松 中野重人・北利夫 瀬川榮志 山口満 新富康央・佐賀県個集研

教科等	書 名	著者・発行所等
特別支援	軽度発達障害の心理アセスメント 学校でのピア・サポートのすべて ～理論・実践例・ 運営・トレーニング～ ピア・サポートではじめる学校づくり (中学校編) 別冊「発達」28 教室で行う特別支援教育 LD・ADHDへのソーシャルスキルトレーニング	上野一彦・海津亜希子他 森川澄男 滝充 本郷一夫・長崎勤 国分康孝・国分久子 小貫悟・三和彩他
幼稚園教育	保育用語辞典 第3版 5歳児の保育資料 ～12ヶ月～ 子どもが落ち着ける7つのポイント～保育の環境づくり 保育内容 健康 実践的幼児教育論 幼児保育～子どもが主体的に遊ぶために～ 健康 ～心身の健康に関する領域～	森上史朗・柏女霊峰 阿部恵 岩城敏之 森上史朗・岩崎婉子 関口はつ江・手島信雄 吉本和子 阿部明子・落合優
辞 典	学校保健・健康教育用語辞典 学校体育用語辞典 平成17年度 文部科学白書	大澤清二・田嶋八千代 学校体育用語辞典 文部科学省
教育評価	絶対評価とルーブリックの理論と実際	高浦勝義
カウンセリング 教育相談	学級経営と授業で使えるカウンセリング ソーシャルスキル教育で子どもが変わる (小学校) VLFによる思いやり育成プログラム	諸富祥彦・会沢信彦 国分康孝 渡辺弥生
生徒指導	登校拒否問題への取組について ～小学校・中学校篇～	文部省
学力向上	学力向上をめざす個に応じた国語・数学・英語の指導 (中学校) フィンランドに学ぶ教育と学力	加藤幸次・四国個性化教育研究会 庄井良信・中嶋博

気軽にご利用ください

ーご利用にあたってー

- ・当教育研究所の図書は、島尻管内の教員であれば簡単な手続きでどなたでもご利用になれます。
- ・貸出機関は1ヶ月です。必要があれば貸出機関の延長もできますが、3ヶ月を限度とします。
- ・貸出時間は、平日の午前9時から午後5時までです。返却の時間もこの時間をお願いします。
- ・貸出を希望する場合は、「図書貸出名簿」に書名、名前、連絡先、返却予定日などを記入します。
- ・貸出した図書が研究所で早急に必要になった場合は、貸出期間内であっても返却を求める場合があります。
- ・図書を破損、紛失した場合は、原則として弁償となりますのでご注意ください。

後期 事業計画

月	日	曜	行 事 等
10	2	月	第 25 期教育研究員入所式 指導講師委嘱状交付式
	5	木	平成 19 年度教育研究員募集要項発送
	18	水	「しのめ教室」第 2 回入室式
	25	水	研究計画検討会
11	6	月	平成 19 年度教育研究員申込〆切 (教育委員会)
	13	月	〃 (教育研究所)
	1	火	教育講演会
	1	水	公開授業
12	4	月	理論研究検討会 (～6 日)
1	10	水	指導案検討会 (～11 日)
	16	火	検証授業 (～24 日)
2	21	水	研究報告書検討会
3	2	金	「しのめ教室」実践事例報告会
	20	火	研究報告会 平成 19 年度前期教育研究員リエンテーション
	27	火	第 25 期教育研究員修了式 第 2 回運営委員会
	30	金	第 25 期教育研究員退所式

後期 第25期教育研究員・指導講師一覧

教育研究員	研究領域	希望研究テーマ	指導講師
内 間 晃 長嶺小学校	小学校 社会	基礎・基本の定着を図り、社会科の思考力・判断力を育てる指導の工夫	幸 地 政 行 島教事指導主事
城 田 聡 大里南小学校	小学校 体育	児童の学力向上を目指して	新 垣 剛 志 北丘小学校教諭
下 地 恵 潮平小学校	小学校 道徳	「互いに認め合いともによりよく生きる」児童を育てる道徳授業の工夫	新垣千鶴子 島教研主任指導主事
奥原絵理子 東風平中学校	中学校 数学	発展的に考える力を育成する数学指導	砂川芳之助 島教研指導主事
平 良 真 也 潮平小学校	中学校 保健体育	保健学習におけるより客観的な学習評価に関する研究	具志堅 弘 島教事指導主事
桃 原 節 子 具志頭中学校	中学校 教育相談	人間関係を育てる支援の工夫	濱 元 朝 純 白川小学校教頭

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親泊明美

一 報得の流にゆるやのに
朝陽に映ゆるきびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程 厳しけど
友の情に 涙して
明日に灯 ともさんと
語る仲間の 声やさし

三 遙かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ぬぐらへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

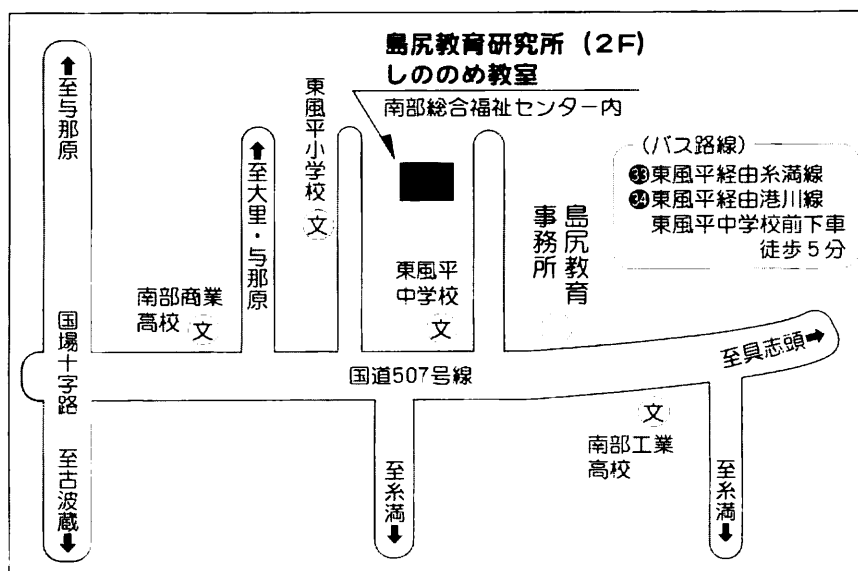
一九九七年五月十三日

東雲

所報「東雲」(しのめ)の意味するもの

「春は曙。やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明かりて、紫立ちたる雲の細くたなびきたる」と、枕草子の巻頭に出てくる雲が東雲(しのめ)である。みるみる東の空は白んで明け方を迎える。

この名称は、本研究所を巣立ってゆく教師達の今後の活躍を期待していることと21世に向けて、夜明けのシンボルである東雲のような役目を果たす研究所とを意味している。なお、「東」の文字には所在地である東風平にも掛けている。



南部広域行政組合 島尻教育研究所

所長 古波蔵 肇

〒901—0401

沖縄県島尻郡八重瀬町字東風平 965 番地

TEL 098 - 998 - 9561 FAX 098 - 998 - 9420

E - mail simaken1@southernx.ne.jp

simaken2@southernx.ne.jp